

しあまりて、このをのこどものこれをかくわらふびんなき事なり、ちの御子聞て、せいせずとて、我をうらみざらんやなどおほせられて、まめやかにさいなみ給へば、殿上の人々またなきをしてみなわらふまじきよしいひあへりけり、さていひあへるやう、かくさいなめば、今よりながく起請す、もしかくきまうやしてのち、あをつねの君とよびたらんものをば、さけくた物など取いださせてあがひせんといひかためて、起請して後いくばくもなく、堀河殿の殿上人にておはしけるが、あふなく立てゆき、うしろ手を見て、わすれてあのをつねまるは、いづちゆくぞとの給てけり、殿上人ども、かく起請をやぶりつるは、いとびんなきことなりとて、いひさだめたるやうに、すみやかに酒くだ物とりやりて、この事あかへとあつまりて、せめのしりければ、あらがひてせじとすまひけれど、まめやかにくせめければ、あさてばかりあをつねの君あかひせん、殿上人藏人その日あつまり給へといひて出給ひぬ、略下

〔源平盛衰記 四十六〕土佐房上洛事

同日ニ伊豫守義源土佐房ヲ召ス、隨召昌俊參、イカニ何事ニ上洛ゾ、ナド又音信ハ無ゾト問、略中土佐房陳申テ云、全其義侍ラズ、爲散不審、起請文ヲ書進セント云、伊豫守ハ起請ヲ書タレバトテ不可實、其上事和尚ガ心任ヨトイヘバ、昌俊其邊ヨリ、熊野牛王尋出シテ、其裏ニ上天下界神祇奉勸請、起請文書、灰ニ焼テ吞宿所ニ歸テ思ヒケルハ、起請ハ書タレ共、今夜不計ハ、惡カリナント思テ、夜討支度シケリ、略中伊豫守時聲ヲ聞、サレバコソ起請法師ガ所爲也、但其僧ハ尤カラズ、何事カ有ベキトテ、チトモニ不騒、略中昌俊大原ヨリ藥王坂ヲ越、鞍馬山ニ逃籠、伊豫守兒童ノ時、當寺居住ノ好アリテ、大衆法師原、山踏シテ尋ケル程ニ、鞍馬輿僧正ガ谷ト云所ニテ、搦捕伊豫守ニ奉大庭ニ引居テ、イカニ和尚ハ、腹黒ナシト、起請書ナガラ、加様ノ結構ヲバ巧ケルゾ、冥覽在頂、神罰不廻踵、奇怪々々ト云ケレバ、土佐房今ハ助ルベキ身ニ非ト思テ、及惡口、夜討ハ二位家ノ結構、起